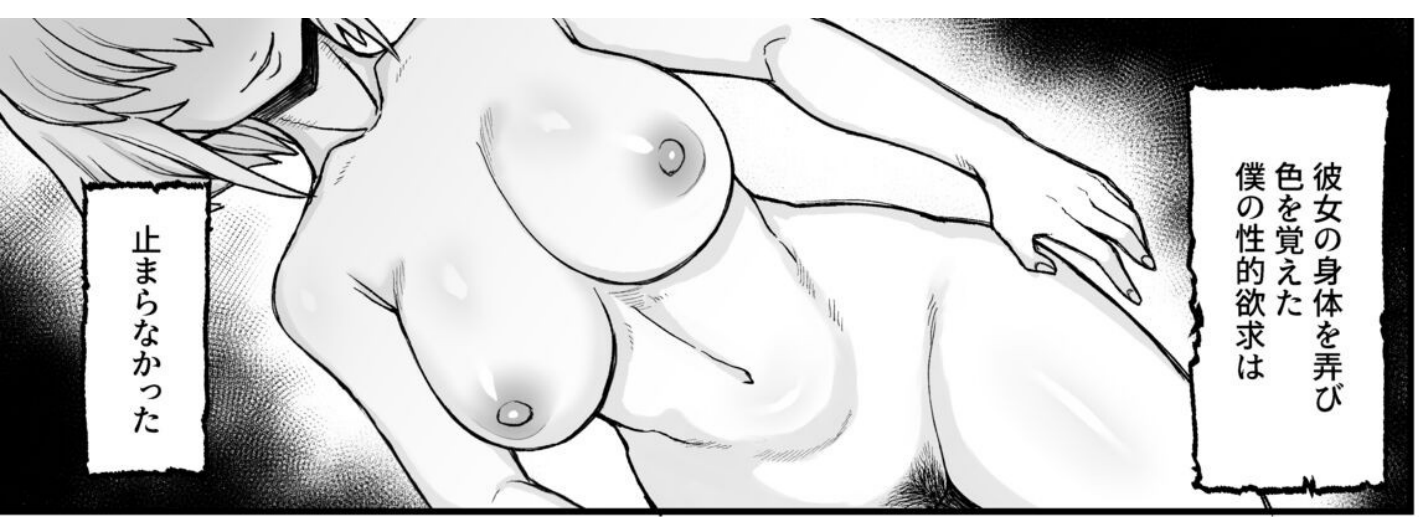
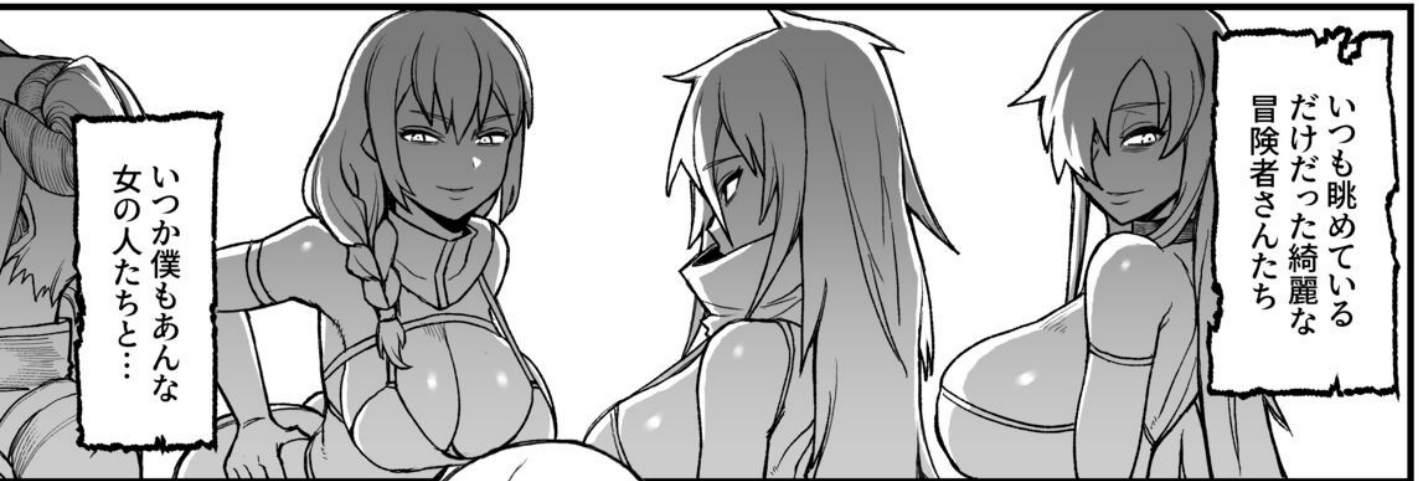




彼女の身体を弄び
色を覚えた
僕の性的欲求は

止まらなかった



いつも眺めている
だけだった綺麗な
冒険者さんたち

いつか僕もあんな
女の人たちと…



今から…
いいかな？

はい…

この目の前の美しい
奴隷の女性を買うまでは…



こんなことばかり
考えていた…

その…



今日もまた彼女に
ちんちんを舐めさせた

んっ...ふ

はぁ...はぁ...

ぐぽ...

あっ...もっ

もっちんちん吸って...

ふあい...

あー...気持ちいい...

奴隷だから命令には
逆らえないとわかっていても
女の人が僕のちんちんを
咥えている姿は興奮した

